

都道府県金融広報委員会 事務局員の活動紹介

「お金」と向き合う授業

宮城県金融広報委員会
菅原 尚子

教室に入ったとたん、一瞬シーン。いつもとは違う先生を迎える子どもたちの顔は、緊張と楽しみとが入り混じった表情です。

「学校の水道代や電気代は誰が払っているのかな?」「道路は?」「校長先生のお給料は?」次々と練り

出される質問に子どもたちは引き込まれていきます。

宮城県金融広報委員会が小学生を対象とした「お金について考える授業」に取り組み始めて9年。最初は7校でのスタートでした。

「お金」について教える機会はほとんどないという現場の先生方の声に少し驚きつつ、ここで私たちが期待されるものは何かを考え、具体的な実践につなげてきました。以来、関心を寄せる学校が少しずつ増え、この事業は確実に根付いてきています。

21年度における実施は40校となり、テーマの設定や講師の人选、教材や資料、機材の手配など連絡調整には時間も手間もかかります。しかし、こうしたチャンスは逃せません。

もともと身近なものはずなのに、なぜか学ぶ機会が少ない「お金」のこと。

「お金は勝手にわいてはこない」という当たり前のことを子どもたちが実感できるような授業の展開に工夫を凝らしていきたいと思っています。

子どもたちは驚くほど敏感で、しなやかで、まさしくな気持ちは持っています。その子どもたちの興味津々な笑顔に出会うことは本当に楽しみです。



夏休み体験教室へようこそ!

島根県金融広報委員会
伊藤 純子

「夏休み体験教室」おかねイロイロ探検隊!〜これが、島根県金融広報委員会が企画する夏の一大イベントであり、私にとつての大舞台でもあります。

親子で参加するこの体験教室では、お金の役割や大切さについて、おこづかいゲームやクイズなどを通し

て楽しく学べるように工夫しています。また、日本銀行の仕事についても紹介しています。約二時間半、私は、さながらテーマパークのナビゲーターにもなったかのような気分で司会進行しています。演劇部出身である私の一面がちょびり顔を出す瞬間です。

子どもたちの反応はさまざまです。大人顔負けの博識ぶりや鋭い突っ込みにドキリとするこもしばしばです。限られた時間の中で、一人一人の声を傾けながら、分かりやすく説明するように心掛けています。「お金って大切ですね。でも、お金で

買えないものもあります。何でしょうか」と問い掛けた時、「命」「家族」「友達」…と口々に答えてくれる子どもたちの輝く目を見ると、何物にも代え難い充実感があります。「とても楽しかったです!」と笑顔で会場を後にする参加者の姿や「今日の体験教室への参加をきっかけに借金についての家族の会話が広がります」などのうれしい言葉に、ささやかながら皆さまのお役に立てていることを実感しています。

今年もまた夏休み体験教室の季節がやって来ました。皆さまにお会いできる日を楽しみにしています!

